

# ★神戸の催し物ご案内

1月

## △音楽▽

★新春の調べ

9日(日) 6時 神戸文化ホール  
ル 民音/一八〇〇円

★神戸外大混声合唱団

9日(日) 3時 神戸文化ホール  
ル 四〇〇円

★関西学院大学アメリカ民謡同好会

12日(水) 6時 神戸文化ホール  
ル 三〇〇円

★甲南大学フォークソング同好会

13日(木) 6時 神戸文化ホール  
ル 三〇〇円

★雪村いづみ・沢電二  
道行きコンサート



雪村いづみ

★市民コンサート

22日(土) 6時 神戸文化ホール  
ル 無料

★スタイルステイクス

23日(日) 6時 神戸国際会館  
民音/三五〇〇円

★辻村清志

24日(月) 6時半 神戸国際会館  
A・一六〇〇円 B・一三〇〇円

★ホセ・フェリシアノ

27日(木) 6時半 神戸文化ホール  
S・三〇〇〇円 A・二五〇〇円 B・二〇〇〇円 C・一五〇〇円

★紙ふうせん

28日(金) 6時半 神戸文化ホール  
音楽友の会/会員・一五〇〇円 一般・一八〇〇円

★岡村隆生「冬の旅」

29日(土) 7時 神戸文化ホール  
民音/一七〇〇円

★関西学院グリークラブ

29日(土) 6時 神戸国際会館  
A・七〇〇円 B・四〇〇円

★美輪明宏

30日(日) 2時 神戸文化ホール  
A・三〇〇〇円 B・二五〇〇円

★神戸女子大コーラス部

31日(月) 6時半 神戸文化ホール  
ル 四〇〇円

△演劇▽  
★人形劇団クラレテ

「くるんばのようちえん」  
「おやじさんの大しっばい」

6日(木) 1時半  
7日(金) ⑩10時 ⑪1時半  
神戸文化ホール 前売・九〇〇円 当日・一〇〇〇円

★民芸(炎の人)



滝沢修 黒田郷子

17日(月) 19日(水) 20日(木)  
21日(金) 22日(土) 6時15分  
23日(日) 1時半 神戸文化ホール  
労働/一七〇〇円  
作/三好十郎 演出/滝沢修  
出演/滝沢修・大森義夫・伊藤隆雄ほか

△その他▽

★初笑い新春寄席

2日(日) ⑩10日(月) ⑪11時半  
24日(月) 神戸国際会館 指定席/  
一五〇〇円 自由席/一〇〇〇円

出演/レッズボー・三匹・桂春団治  
上方柳村、柳太ほか

★吉本新春お笑い寄席

5日(水) 6日(木) ⑩11時 ⑪12時  
2時半 神戸文化ホール 指定席・二〇〇〇円

★大えびす寄席

9日(日) 3時 西宮市市民会館  
A・一七〇〇円 B・一〇〇〇円  
出演/笑福亭仁鶴、中田カウス・ボタン、桂文珍ほか

★神戸五流能

22日(土) 1時 神戸文化ホール  
ル S・四〇〇〇円 A・三五〇〇円 B・二〇〇〇円 C・一〇〇〇円

★市民映画劇場「サウナター」

26日(水) ⑩28日(金) 6時半  
29日(土) 1時半

★マリアローサスペイン舞踊団

31日(日) 6時半 神戸国際会館  
民音/三〇〇〇円

## ●愛読者優待席

神戸っ子読者に左記のステージを割引優待致します。

★丸山圭子+ブエンド  
ラブリコンサート

2月14日(月) 6時 神戸国際会館  
A・一五〇〇円 B・一〇〇〇円  
をそれぞれ一割引

★ホセ・フェリシアノ

2月27日(木) 6時半 神戸文化ホール  
S・三〇〇〇円 A・二五〇〇円  
B・二〇〇〇円 C・一五〇〇円  
をそれぞれ一割引

★関崎子ピアノ協奏曲の夕

3月18日(金) 7時 神戸文化ホール



桐朋学園高校音楽科に在学中、一九五八年音楽コンクールに第一位入賞。卒業後ブルライト給費生としてニューヨークのジュリアード音楽院に留学。帰国後、一九七一年、音楽クリティッククラブ賞、一九七四年、大阪文化祭賞を受賞。現在大阪相愛女子大学音楽部助教授をつとめる。かわら幅広の音楽活動を行う関崎子(芦屋市在住)がリサイタルを開く。伴奏者は昨年、芸術祭優秀賞を受賞した大阪テレマンアンサンブル(指揮/延原武春)  
A・二〇〇〇円 B・一五〇〇円をそれぞれ一割引。  
ご希望の方は電話かハガキで神戸っ子編集室・優待係(川崎)まで

# 人間模様

□人間模様〈第十二回〉

石橋たたくマジメ型／ワールド(株)会長

木口 衛

重森 守 （元朝日新聞神戸支局長） 題字／望月美佐 カメラ／米田定蔵

「ワールド」といえば、いまや日本中に知れ渡るニットの大メーカー。さらびやかなファッションの世界で、おおかたのご婦人方をひきつけるブランドをそろえたトップ企業である。

その創始者であり、いまも代表取締役・会長として君臨する御大、さぞやシャープでスマートな英国風（おっと、ニットなら本場はイタリアか）の紳士と思いきや……

「私あ、いなかの百姓のせがれでね、どっちかいうと昔型の男ですよ。だいたい、人間は小さいネ。小ぶりすわ。その代り、固いことは固いがねえ」

五十三歳。身長百五十四センチ。失礼ながら、ズングリムックリ型ではある。

「ファッションいうたかて、それはもう社長以下に委せつきり。私自身、センスも何もおまへんのや。（ふっと表情を柔らげて）こない、いうてしもたらいかんのやねこの際は……」

ふとい眉、ギロツと光る眼、厚い唇——強靱な意志を示す顔の道具立ての一つひとつが、暗夜の灯台みたいにこちらを照らした。

「うむ。まア、負けん気は強いなあ。背の低いのは誰でもそうやないかな。体力はアカンから、ほかの何かで見返したろ、いうとこがあるもんねえ」

創業は昭和三十四年。ジリジリと自力をためこんで、

この五、六年の間にアレヨアレヨの膨張ぶり。「売上目標みたいなもの、たてたことない」くせに、平均六、七割の急成長をとげた。売上額だけを見て——

六年前、八十億円

一昨年、二百七十五億円

去年、四百三十億円

「どうということない。（平然と）みんな、自然増ですわ」つまり、放っておいても、ふえていった、とおっしゃるのである。

会長室から眺めると、筋向かいの一等地に十階建の新社屋が目下着々と建設中。

なぜ、こんなに伸びたんですかねえ。ヒケツがあったら、教えてもらえませんか。

「それ、よう聞かれるけど、私にもわかりまへんのや」まさか。アナタは戦後、裸一貫、新開地のヤミ市から身を起こし、ワールドをここまで成長させた張本人やおまへんか。

「うーむ。まあ、ねえ。条件は一つや二つじゃないけれど一番のアレは経営者と社員が相互信頼でガツチリと結ばれとるいうこと。こんな会社、ほかにおまへんど。とにかく、あんた、ウチの従業員が外へ行って、会社の悪口やグチ、いうたことは一遍もおまへんのや」

どこでも中小企業は普通、十七、八年もやっていれば





幹部の三、四人は退社して独立してるのがこの世界の習い。それが、ワールドじゃ分家は一店もない……そうなの。なぜ、出ていかんのですか。せめて、グチの一つぐらい、どこかで洩らしてるはずですがねえ。

「いや。うちの社員は、ひとの三倍も働いてるんやから給料はまア三倍とまではいかんけど、おそらくよその二倍は払っとる。それでも会社は儲かってる、いうことですな」

え？二倍も……？

「(ちよつと、あわてて)これは、たとえの話や。二倍と書かれたら、またハタタリいうたと社員に怒られるけど……。まア、うちの待遇がいいのは、世間でもみんな知ってますからなア」

今年の大学卒初任給は十万余円。ボーナスの支給額は

発表すると(あまりにも多いので)全職同盟が困るやろと、いつも何カ月分プラスアルファというあいまいな表現で「ごまかしてまんのや」という次第。

なんとも羨しい話。貧乏人のヒガミじゃないが「カネの力で、人の和を保つとるんでしょ」なんて口走りたくなってきたほどだ。

この会社、平均二十三歳半という若きなのも大きなエネルギーのひとつ。四年前、この人から社長の座を譲られた畑崎氏にしても、最近四十歳になったばかり。あとはみんな三十代以下だそうなの。

「いま三十歳の連中が四十すぎになるころには、いろいろありまっしやろけんねえ」

やつと世間なみの心配をしてみせて頂いた。が、それも十年先のこと……。

ワールドといえどニットひとすじ。それも企画——製造——卸しと自社一貫作業の強みがモノをいつてる。おまけに受注してから生産するという石橋を叩く主義。小売店からの返品は、いっさい受け付けない強気の商法。長い間、いくら儲かっても土地ひとつ買わず、ひたすら手綱を締めてばかりきた手堅さ——。

商売としては、まことにオモシロミのない、地道な作戦に徹してきたんですね。どうして、そんなにシブいんですか。

「それがねえ、（息をひそめて）実は、独立して一年そこそこのとき、倒産にひっかかって、えらい目におうたんですわ」

在庫の品を現金で叩いて安く仕入れる。それを百貨店向けの問屋筋へ「手形でいいから」と高く卸す。そんな商売をしていたとき、問屋の一つが倒産。計一千五百五十万円の手形が、ただの紙切れになってしまったのだ。

「十七年前ですすからなあ。一千万円は大きいおました。まア、欲に目がくらんでやられたんやと、これをいい教訓にしたんですわ」

もともと、固くてマジメで通してきたおかげで、銀行もメーカーも協力してくれたから、立直りは早かった。以来、順風満帆。

「あとは、ずーっと、もうけさしてもろてばかり」という結構な航海なのである。

「若いころ徹底的に苦労したから、倒産したかて自殺しようなんて考えたこともなかったし……」

もともと、裸一貫の人生だ。

岡山生まれ。百姓がイヤで、尋常高等小学校を出ると一人で中国大陸へ渡った。「大福もち二つで昼めし代わり」という生活。二十二歳のとき終戦。リュックと三十キロの梱包一つもって帰国した。中身は新品のメリヤスなど繊維製品ばかり。大陸仲間二人とともに、これを新開地のヤミ市で売り始めたのが商売の第一歩だった。

「つまり、ヤミ屋ですわな。純綿いうだけで有難がられ

て、アホでも儲かった。五日おきぐらいに正礼つけかえて、値上げしてましたよ。そやけど、あの時分、バカでかい儲けでアブク銭つかんだ人は、みんなつぶれてしまった。私ら、仕入れのために値上げしただけで、ずーっとマジメに、こつこつ正道いってましたからなあ、ヤミ屋いうたかて、悪いことしたとは思ってまへんで」

やがて、独立。中山手の一角に七坪の店を持った。店も体も小さいけど、社名はできるだけ「デッカイの」と知恵をしばってつけたのが「ワールド」だ。

「お客には笑われましたけどな、いずれ、世界中にウチの製品を買わしたろ、と意気こみは大きかったんですよ」

夢が現実になった。

コーディネイト・ファッションの旗手として、いまや

当たるものなき隆盛ぶり。

「私は堅実型、社長は『やりたがり』うまいこと咬みおうて、あぶなげない、ちゅうとこですな」

が、いくら儲かっても、ご当人は相変わらず地味なものの。客の接待はしない主義だから、夜の街でツケのきくところ一つない。麻雀もダメ。ときたま日曜にゴルフをするか、謡曲をうなるぐらいが関の山らしい。

それじゃ、一体、余暇はなにしていますか。

「おかあちゃんを大事にしています。（笑って）ちょっと変わりダネでっせ、私は。世間でも『珍しいタイプや』いうことで通ってますわなあ」

立志伝中の人物には、こんな石部金吉サンがままいらっしゃる。まことにつきあいくらいの人種である。

ねえ。

「夢とか目標とか語るの、不得手ですわ。いつも夢をいう人に限って、足元になんにもないことが多いですよ」

なんという現実主義者、夢ぎらいのファッション屋さんなんて……

「KFC（コーベ・ファッション・シティ）」という協同組合つくったけど、ポートアイランドにファッション会





「うん。まあ、会社じゃ、私、もう飾りもん。天皇

「うん。まあ、会社じゃ、  
なみ。そう、象徴ですわ。  
営業面は、みんなカンの  
いい社長がやってくれと  
るからねえ」

「私、百姓から出て、  
うという構え。  
うたは外向きに、業界の  
ために一肌も二肌も脱い  
だ」

「私も、百姓から出て、  
うたは外向きに、業界の  
ために一肌も二肌も脱い  
だ」

「私も、百姓から出て、  
うたは外向きに、業界の  
ために一肌も二肌も脱い  
だ」

「私も、百姓から出て、  
うたは外向きに、業界の  
ために一肌も二肌も脱い  
だ」

「私も、百姓から出て、  
うたは外向きに、業界の  
ために一肌も二肌も脱い  
だ」

「私も、百姓から出て、  
うたは外向きに、業界の  
ために一肌も二肌も脱い  
だ」

「私も、百姓から出て、  
うたは外向きに、業界の  
ために一肌も二肌も脱い  
だ」

館つくる話も、夢みたいな青写真だけで一向に話が前へ  
進まん。経済同友会や商工会議所で、バラバラに話が出  
るだけですわ。もつと暖かい目でフアッシュン産業を育  
ててやるいう声が、ほかからも出てこんとねえ」  
業界ぐるみ、いや、もつと全体の盛り上がりをもっと  
いうことになるど、一つの企業を引っぱっていくような  
訳には参らない。そこところがジレツタイらしい。  
こればかりは、簡単にコトナイネイトって訳にはい  
きませんねえ。

「たとえば図書館みたい  
なものですよ。建てた人は木口らしいで、と後の  
世にいわれる程度のものでいいからねえ」

社会的に役立つもの、ということですね。  
「そうそう。(ふと苦笑して) こんなことという“エエ  
カッコしょって”と笑われるかな」  
いえいえ。結構なことだ……。しかし、固いなあ。  
「どうも私の話、まじめばっかりで、オモロナイでしょ  
う。うまいことまとめるの、大変でしょうなあ」

サースガ。おとしやる通りでございます。

●KOBEに神戸らしい店を……●

# 謹 賀 新 年

昭和52年 元旦



本年もよろしく願い申し上げます

信頼される

**KOBE  
NIKKEN**

店舗装備のプロフェッショナル

(株) **神戸日建**

神戸市葺合区御幸通3丁目1

PHONE 078(251)3525(代)

# ★神戸の集いから

## ●エロス追求と アポロ打上げを

山陽電鉄の宣伝部長として、またエロス研究家として細い体躯にエネルギーな活躍を続けた山本芳樹さんが10月30日に退職。その慰労感謝の「山本芳樹氏百人会」が須磨・寿楼で11月19日に開かれた。昨年美しい奥さんを迎えられハッキリ芳樹さんを励まそうと108人が集まり、小池義人、福田義文、柴田旭堂、春木一夫、広瀬安美、吉田泰己今岡領子さんら多彩な顔ぶれだった。(中央山本さん)



## ●結婚して太った夏目さん



嬉しそうな夏目夫妻



なごやかな夏目夫妻を祝う会

劇団神戸の演出家夏目俊二さんが、女優の小倉啓子さんと11月17日ベルギーのリースの町ブルージュ市でブルージュ市長のもとで結婚。ドイツ、ウィーン、チューリッヒ、アテネとハネムーンを楽しみ、11月28日帰国。12月4日貿易センター24Fのバグ特別室で結婚披露パーティが開かれた。長島隆市民局長、安水稔和夫さんらのスピーチ。松本

幸三夫妻や、近衛真理、阿部望さんらのデュエットや唄があるなどなごやかで、大川きよし、浜田義則さんから劇団員ら約40人が新しい門出を祝った。

## ●バリ帰りの鴨居玲

松本宏画伯も

恒例の元町画廊の具象五人展が、11月30日～12月11日まで開かれ、初日には、パリから帰神した鴨居玲、松本宏画伯に、西村功、河野通紀、中西勝画伯ら五人全員が久々に集ってのオープンニング。友人、仲間が自然に集い画廊は大賑い。

それぞれの個性をぶっつけあつての絵は、手ごたえのある充実さと愉しさがあ



力作を競う五人展のオープニング風景

って、元町画廊の佐藤廉さんの作家を見守る姿も満足そう。

## ★山本万司個展オープン!



山本万司さんを囲んで(マイクを手にするのが山本画伯)

山本万司氏(国画会会員)の近作展「花とスードと姑娘と」シリーズがギャラリー「神戸時代」で開かれた。そのオープンニングを記念して11月25日(午後6時)パーティがひらかれ山本万司氏ご夫妻を囲み和やかな歓談のひとときを過した。当日、神戸新聞の伊藤誠さん、山本芳樹さん、工学博士の山本忠弘さん、神戸文化ホールの森田副館長などがお祝いにかけつけた。





動物園飼育日記—125— 亀井一茂



訪中シリーズ〈4〉中国産オオヤマネコ





## □ 中国産オオヤマネコ

「お父ちゃんネコ言うてもこれくらい大きかったらネズミもいっぺんにおらんようになるやろなあ!。それにスタイルもええし、だいいち、ものすごいええ顔してはる。家で飼われへんもんやろか!」私服のボクの横にいたお方の声!。それは、中国、天津市よりオオヤマネコが到着した翌日のことだった。

動物園生活二十六年のボク、たまには長靴に作業服を脱ぎすて、ネクタイに背広。カメラ片手に「美人」と連れだつて（ここは女房に内緒）お客さんで園内見学とシヤレて見たくもなる。いや、事実。とき折り私服姿で知らん顔。雑踏に潜りこんでは入園者の「ご感想」を取材してまわることも欠かせない我々の仕事である。

だからこそ、こんな愉快な会話を耳にさせて貰ったのだ。大きくとも小さくともネコと名のつくことが、一般の方々にあやまりを起させている。とにかくイエネコの大形で、野山にすむものをヤマネコとよぶのだ。とストリートにイエネコとのつながりを考えさせてしまっているのだ。

「あ! やっぱりうちのネコと同じに手で顔を洗っている」

「座り方がまた、まねきネコそのままや!」

「それにあの短い尾、切つてあるのところがう!」

いやはや、これみな動物園側の説明不足。責任を痛感



どうです。このリリしい顔立ち

させられたことだった。

## 「ネコ科の仲間」

トラ、ライオン、ヒョウ、がネコ科の動物で我々の飼うイエネコとも近い同じネコ科にあることはご存知のとおり。

だが、ネコ科をさらにヒョウ亜科とチーター亜科。そしてネコ亜科の三つに大別される。そのネコ亜科をさらにまたヤマネコ群とイエネコ群とに分けることを知って頂きたい。もちろんオオヤマネコはヤマネコ群にはいるわけだ。

さて、その特徴をひろってみよう。

◎ 猛然と相手を攻撃するときあのすごい「ほえ声」をだすことができるのはトラやライオンなどヒョウ亜科。ヤマネコは「ほえ声」を出せない。

◎ チーター亜科はネコ科にありながら、ツメをひっこますことができない。などかなりのちがいをもっている。

◎ ヤマネコ群の耳は先がとがつっており、とくにオオヤマネコの耳の先端に長い冠毛があるのも特徴のひとつ。それにひきかえイエネコの耳はまる型が基本型。

◎ 背や胴の斑点がヤマネコではほとんどのものが背骨にそって頭から尾の方向に流れている。その反対にイエネコは背から四肢に向け流れているものが多いのである。

◎ また水を嫌うイエネコに対しヤマネコはたくみに泳ぐこともつけ加えておきたい。

## 「まるで家具だった輸送オリ」

その日、昭和五十一年十一月十六日、大阪空港に到着した中国民航機から運び出された四つの輸送オリを眼前にボクは、もう無事だろうか? などという気持ちでオリの中をのぞくことができなくなつてしまった。

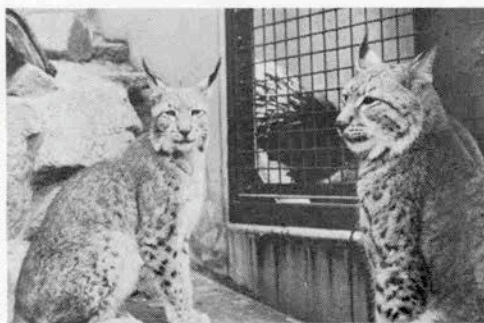
濃いつやのあるスカイブルーのエナメルで上塗りされた運送オリ。やや背の高い2個はタンチョウヅル。少し長めの2個がオオヤマネコだったが、クロームメッキの取手金具に鉄格子。オリの底にはスノコが敷かれ、天井は頭を保護するため厚いコールテンが張られ、前後の落

し式オリの扉は音もなくゆるりとすべり落ちるという手仕上げ作り。それに何よりもオリの中の動物たちへの不安を考え、鉄格子出入扉に、本格的なシルクのカーテンが取り付けられている事だった。そのカーテンをそおと開けてみるといきました、いました。この可愛い瞳をボクに向けハナをすり寄せ近づいてきてくれたのはよかったが、つい得意になったことが失礼になったのだろう。「フーッ」と、初対面の攻撃をボクにあびせてきた。

空港での通関手続きなど終了まで約一時間少々というスピード振りも日中友好使命という動物たちへの関係機関のご配慮のあったこと言うまでもない。

午後六時前、無事動物園に到着。二カ月の工事期間で仕上がったタンチョウ舎へはすぐ放鳥してやっただが、オオヤマネコは少々苦心することと相成ってしまった

何にせ、日没してしまったことが人間側に不利となつたことかくせない。予定された飼育舎に、その家具のようなオリを押しあて、さて、扉を上方に引開けたらどうだろう。外灯や照明灯の明るさが逆効果となったのか、それともオリ内での移動生活に馴れてしまったのか、全開された扉にさえ知らん顔。一向に外へ出て頂けない。ちよつと近づけば、すかさずキバをむき襲いかかってきた。旅の疲れと対面する人のちがいが分るのだろうかオリから出たとたん二頭は飼育舎、ところ狭しとはかり「ギキ鼻」をすり寄せ、歩き回り、やつとのこと座つて



獲物を狙う鋭い目つきのオオヤマネコ

くれたのは二昼夜すぎでからのことだった。到着の翌日、宮崎神戸市長参列による動物引渡式々典。その日、ボクは入園者にまぎれ、入園者方々の意見を耳にしたのである。

「奇偶十六の日旅立ち」

神戸市の姉妹都市、中国天津市へ、神戸生れのキリンを贈るため、オリに馴らせるため可愛想だが親から離れたのは出発四十六日も前のことだった。輸送オリの中に入らないと餌が食べられないよう工夫したことから、もうすつかりオリに馴れ、平気で入り、座りこんでくれるまでにもなつてくれた。

さて、出発の前日、「ここまで馴れているのなら明朝でも間にあうのでは」という多数意見もあったが、用心を踏んでその前日夜、輸送オリに収容する作業をはじめたらどうだろう。あれだけ中に入りこんでいたキリンは頑としてオリに近づかず逃げ回りとうとう強制的に収容したのは夜の十時すぎにもなつてからのことだった。

その別れの日を悟つたキリンの児をトラックに積みこみ、八頭の親兄弟に見送られ、動物園をあとに旅立ったのが昭和五十一年七月十六日のことだった。

その満四カ月の奇偶にも十一月の同じ十六日。キリンの返礼にとオオヤマネコひと番。タンチョウヅルひと番が十六日に出発空路到着したのだった。東北地方で捕獲されたときは生後一カ月。その後人工で育てられたとあって少々の雑踏にも平気に二頭でじゃれあうかと思えば突然前伏せ、はたと静止、何かを狙いはじめた。その視線には園内放し飼いのホロホロチョウに鳩やスズメそれに動物舎にうろつくネズミだった。ちなみに、中国語による飼育方法説明を記せば、中国北部産。高山の密林で単独か数頭で住む。朝・夕に活動し春に交配。約六十二日で二・三子を生む。エサは新鮮な牛、羊、兎、鶏肉を与え、骨粉や少々食物も与えること。

体長およそ一米、尾は短かく十五センチ位。体重二十〇二十五キロ。 〽王子動物園学芸員／写真も〽



★神戸ファッション市民大学OBによるグループ  
 <神戸のファッション都市化をめざす>

# K.F.S. news 15

事務局／神戸市生田区元町通 2 丁目 37 村田ビル  
 デザインルームナカハラ内 TEL 391-4768

## ●今。人々が求めているのは“自由”の表現

藤金やす子<ヘアーデザイナー・K.F.S.>



パリの藤金やす子さん

組合)のニューライン発表のため、パリ・モ  
 9月26日、S・H・C・F(フランス高等美容  
 研修は毎日学校の募集する実際のお客様を  
 使って行うので非常に実力がつくようであ  
 る。私共の東京店・店長を一年間の留学のた  
 めに残して来ました。

現在ロンドンではアランスクールとサッス  
 ーンスクールが美容界で大きなウェイトをし  
 めている。ここでは国家試験が無く本当に実  
 力の世界／私達が入ったクラスは外人学級で  
 全くインターナショナルである。

9月16日、ここはロンドンの中心地、ピカ  
 デリーストリートより5分のスイスセンタ  
 ー2Fに在する「アランインターナシヨナルス  
 クール」へ私ども神戸美容専門学院の生徒達  
 を連れ、研修しております。

□欧州(ロンドン・パリ) 研修旅行より

ンマルトル、ホテルシエラトン02にいま  
 す。今期'76'77秋・冬のニューライン、命名  
 は「リバティ」このニューラインについてス  
 テルン会長は現在の人々が求めているものは  
 「自由」である。

今や自由の時代であるとしています。スポ  
 ーティであり、エレガントでありメカニク  
 であれ、フアンタジーであれ、それは求める  
 人々の自由であるというスローガンに私はす  
 ごく共鳴しました。

世界から集ったS・H・C・Fメンバーと  
 共に三日間の研修を終えドゴール空港より再  
 度ロンドンスイスセンター研修を経て10月8  
 日午後2時ヒースロー空港より帰路東京へ。

## ●K.F.S マンスリーサロン

1月例会／本年より金曜日に開きます  
 1月14日／金／午後6時30分より9時

新年会／於北京樓

講師／亀井 一成氏／王子動物園学芸員  
 テーマ「動物界の顔役たち」

会費／¥5,000



亀井一成さん

## 2月例会

2月18日／金／午後6時30分

講師／大谷 武司氏／神戸新聞マーケティング  
 センター調査部長

「新しい消費者層について」

## ●兵度県の文化を育てた人に 「ともしびの賞」 贈られる



「ともしびの賞」を坂井知事から受ける人々。県民会館11Fホールで。

今年度の「ともしびの賞」の受賞者が決まり、第2回「ともしびの賞」贈呈式が11月26日(金)午後1時30分から県民会館11階ホールで賞の贈呈と受賞祝賀会が開かれた。挨拶に立った坂井時忠兵庫県知事は「本当地道に兵庫県の文化を守り育てて下さった皆さまに心からお礼を申し上げたい」と10人4団体を表彰した。

今年の受賞者は西田徳次(有馬人形筆の製作の継承と後継者の育成) 菅の芽グループ―菅屋(昭和39年以来文化財の調査研究、指導などに貢献) 麦わら音取保存会―伊丹(文化遺産麦わら音取を復活させる) 阪上丈夫―宝塚(郷土史の研究による著書や論文の発表) 木村栄次―明石(短歌の創作や明石文庫の主幹) 杉原紙研究会―多可郡加美町(古い歴史をもつ杉原紙の復元と民芸品の創造) 井上一夫―竜野(西播文学界の設立) 中上実―家島(郷土史研究遺跡の発掘調査) 溝尻顕吉―日高町(日高美術協会結成とリーダーシップ) 柏村儀作―生野町(生野史の研究遺跡の発掘) 中山正二―篠山町(図書館活動に専念、郷土史研究) 白井芳郎―氷上町(郷土史研究、丹波布の復興と技術保存) ともしび会―洲本(淡路での演劇活動) 木下久市―南淡町(人形浄瑠璃の保存と後継者の育成、壇尻歌)



□話題のひろば

II

●「ニューセンター」ビルオープン

## センター街に新風

話題を呼ぶ映画館や書店



12月5日に行われた「ニューセンター」ビル完成記念のテープカット（写真提供／神戸新聞社）

センター街に新しいファッショ  
ンビルが完成し、十二月三日完工  
記念式典が行われ、五日にオーブ  
ンした。このビルは神戸市都市計  
画局と地元の三宮第二防災建築街  
区造成組合（米崎岩雄理事長）が  
事業を進めてきたもので、昨年の  
七月より着工された。

このビルは「ニューセンター」  
と名付けられ、地下一階には、書  
店、一階は従来の専門店街、二階  
から四階にダイエー（三月オーブ  
ン予定）、五、六階が映画館二館と  
なっており、七、八階は同ビルの  
事務所、倉庫といった構成。

米崎理事長は「昭和四十二年に  
防災建築街区の指定をうけて約十  
年かかりました。初めての試みで  
どうなるかと心配でしたが、一応  
理想のものができたと思っています。  
す。どのようなテナントが入るか  
という点が一番気になりましたが  
有力な方々に入ってもらえ、若い  
人たちに人気を呼ぶと思っています。  
す。」と熱っぽく語る。各店の内装  
も近代的なムードで親しみ易い。

センター街の山側は「さんプラザ」  
「センタープラザ」それに現在工  
事中のビルとファッションビルが  
一連となり、南側の「ニューセン  
ター」とも将来、渡り橋によって  
連結される予定だ。このビルのオ  
ープンによって周辺の近代ビル化  
へ大きく前進したようである。

●知らざあいつてきかせやしよう  
花の神戸の外人若衆たち

カナディアンアカデミーガクセイカブキ

# 仮名手庵歌舞伎 吉例興行



ケン・エリス、ボブ・エルダー、ロス・グリヤ（左から）演じるところの「弁天小僧」（写真上）  
とボブ・エルダー、ハイジ・ジュレフアー、ロス・グリヤ（左から）の「助六」（写真下）

「これが神戸の街の特色だな」  
文化ホールの11月28日の情景を見てそう思った。演し物は仮名手庵歌舞伎。本格的歌舞伎をカナディアン・アカデミー（六甲長峰台）の外人生徒たちが、時に威勢よく、時に歌うような節まわしで演じ、外人日本人混じって熱心に観劇。

海野光子先生——大正三年にカナダ人の宣教師が創立した日本有数の外国人学校のたった一人の日本人教師。その海野先生の指導でもう六回を迎えた吉例仮名庵歌舞伎が初めて学外で公演したのだ。「せめて衣裳をつけて舞台稽古ができた……いつも当日初めて衣裳を着るといふ状態だから一日目（27日）はやっぱり散々だったんですよ」緊張と慣れぬ重い衣裳、小道具……コチョコチになった連日の深夜までの稽古の成果が出たのは二日目とか。「うちの歌舞伎は美しさと熱意ではどこにも負けないですね。演技も高いものを目指しています……」何と素晴らしい若者たちだろうかと教師が生徒を尊敬できるなんて私は幸せですと目を光らせて語る海野先生。「ジェシちゃん」なんて声がかかる舞台を見ながら、ロビイで売ってた手づくりのチョコレートケーキを食べて「助六」「弁天小僧」の歌舞伎十八番を見るなんて、こいつあ文句をいえますめえ。



□話題のひろば

IV

●Let's Enjoy Standard Jazz.

## キューートな歌声で

滝 えり子

鍋島 直昶 トリオ

ジャズリサイタル開く



ムーディなナンバーをのびやかに唱う滝えり子と鍋島直昶トリオの演奏風景

神戸は中山手にある「アルパトロス」のえりちゃんとナベさんのトリオが、アットホームなジャズリサイタルを開いた。と書けば仲間内の呼び名になるが、そんな言いまわしがびつたりの会。

それは12月3日の夜のこと。

「抱きしめたいこのひととき」

“Let's Enjoy Standard Jazz”という白いタイトルが美しいライトをあび、布引の滝にちなんで芸名をつけたという滝えり子は、スイートでムーディな歌声を神戸文化ホール(小)の会場に響かせて観客を魅惑した。鍋島直昶のピアノとパイプ。竹内郁夫のドラム。田中政好のベース。そしてブラスワンのゲストはピアノの宮原透。

演出／若林輝雄、照明／林啓介、司会は小山乃里子。

この日のためにとブルー、ピンク、パープル、ブラックと4着のドレスをチェンジしたえりちゃんは、「アゲイン」や「マイフアニーパレンタイン」『慕情』など古き良き時代のレパートリーの数々を歌い宮原透作曲の「ナベさんのためのブルース」や「キューート」などを鍋島トリオが演奏。田中政好さんの「マックザナイフ」など手なれたもの。

「アルパトロス」の店内で楽しむときと違ったステージのリラックス・スイングぶりは、のびやかで神戸らしい雰囲気があふれていた。

# andré courrèges

■ファッションレポート ボンジュール・クレージュ!

藤本 ハルミ

パリにさきがけて発表したといわれるアンドレ・クレージュ氏の77春夏コレクションを一言でいえば、シンプル&イージー&スポーティブであった。

ターコイズブルー、ラベンダー、レッド、ピンク、レモンイエロー、グリーン等々カラーで澄みきったブリリアン・トーンは実に鮮かで、今年の芥川賞に“限りなく透明に近いブルー”という名のものがあつたが正に透明に近いブルーでありピンクでありマルチカラであった。

ミニを世界中にはやらせたクレージュ氏はパリの男性デザイナーの中ではまれにみるノーマルで健康的な精神の持主だといわれているが、彼の作品を見ていると彼の表現しようとする世界はモンマルトルのけむったパリの風景ではなく、それは南仏ニースの紺碧の空のもとにくりひろげられる生命の讃歌、色彩の饗宴ともいふべきで、明るい青春があふれ、見る人に生きる喜びと限りなき未来を信じる勇気をあたえてくれたように思われた。

ショーはコミカルに描いたエールフランスのジェット機からスチュアーデス、機長、おしゃれなお客様が次々と降りてくるといった場面から始まって避暑地の海辺や山荘、スポーツ場面ではテニス、乗馬、スキー、ホッケー、サーフィン、アメリカンフットボール：ETC、はては決闘、交通事故迄あらわれて救急車のサイレンとともにタンカを持った看護人があらわれるといった正に生活そのものを舞台に二百点近い作品がオムニバスなドラマを見せてくれた。

素材はコットンとコーティングしたガラガラ光る布が印象に残ったが、どのドレスも人の体を拘束せず人間が何かをやるためのその目的に一番ふさわしい衣類という原則をはっ





きりと見せてくれたように思う。

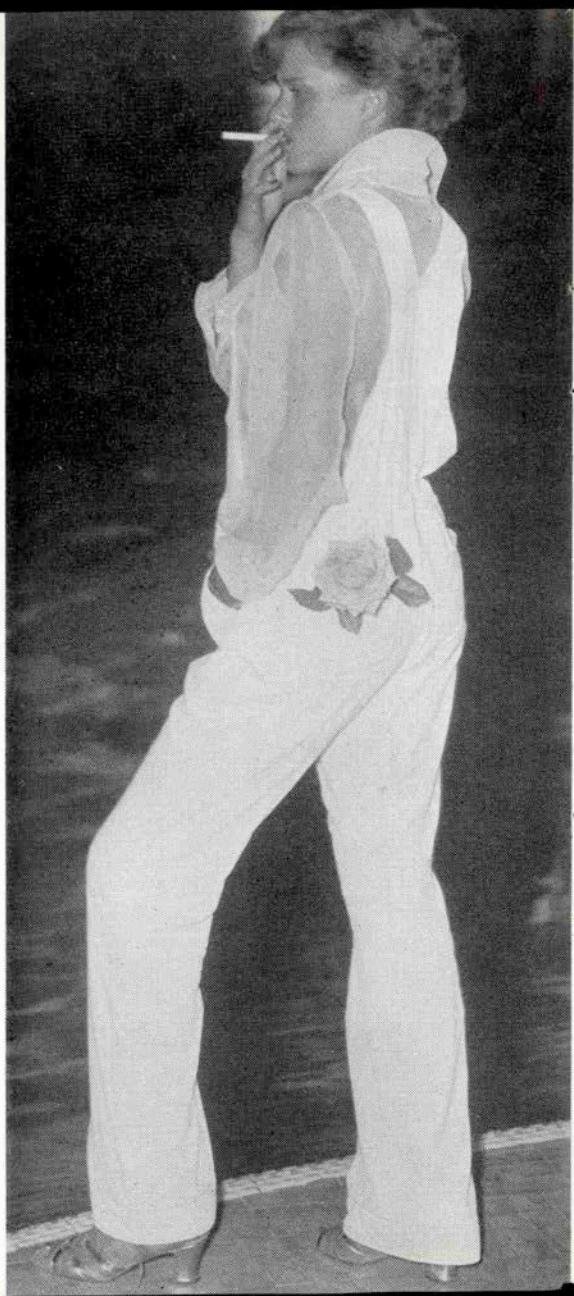
このコレクションのインタビューに答えて彼は「私は自分を服飾のデザイナーだとは思っていません。土木建築や自動車、その他にも沢山興味を持っています。だから私の作る服は私の持ち味を生かしたものでそれは環境の一部だと思っています。

現在の環境をもとにして新しいものが生れどいう服が今の環境に合うかを考えながら服を作り出しているのです。

現代はテンポも早くアクティブです。それに必要なものは行動しやすく明るいものだと思うのです。その中でこそ女性らしいのです。」と語っています。

今パリのプレタ界では日本の高田賢三、三宅一生、山本寛斎といったデザイナー達が東洋の布をまといつけるという衣生活の感覚を主にして直線裁ちの大胆なシルエットを発表し世界に大きな影響をあたえています。それに対してクレージュこそはヨーロッパのマン・テラーから発達してきた立体を原点とし、その延長線上のナウなドレスを作っている人物なのではないでしょうか。だからこそ東洋人である私は彼のケレン味のないモダンイズムにひきつけられてしまうのです。

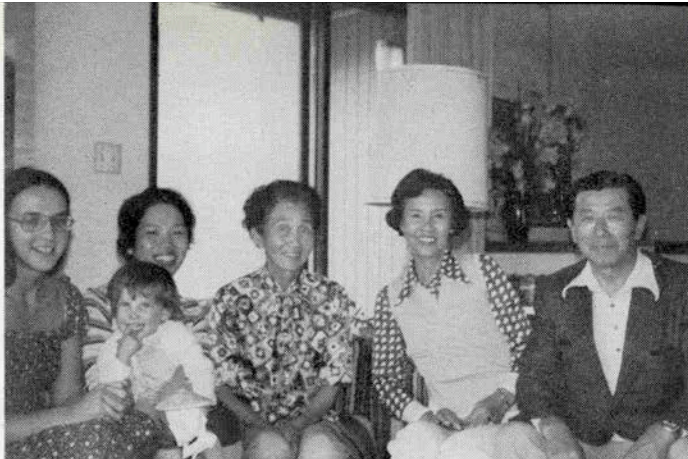
△ファッションデザイナー・マーガレット・オーナー▽



アメリカ・カナダひとり旅へ3V

# シアトルの 日系人たち

小畑 延子 〈家庭養護促進協会  
「ケースワーカー」〉



橋口さん宅で。左よりパーソン夫人、筆者と橋口さんの母、山田夫妻

シアトル市には多くの日系人が住んでいます。私はシアトル滞在の10日間は、日系二世の橋口さん宅でお世話になりました。ご主人はボーイングという飛行機会社の技師で、夫人は洋裁学校の教師です。二人の娘さんと一人の息子さんがいますが、一人の娘さんはすでに社会人になり独立してアパートで生活しています。二人の子供たちはワシントン大学の学生で寄宿舎に入り、橋口夫妻の隣家には夫人のお母さんが一人で住んでいます。夫人のお母さんは、誰れの援助を受

けなくとも、亡くなられたご主人の年金と、自分自身がかなり長く働いてきた年金とで生活しています。ぜいたくはできなくともごく普通の生活ができる程度の給付が保障されています。

このお母さんは七才の時両親と共にシアトルへやってきました。外来者が社会の一員として受け入れてもらうまでには相当の苦労があったようです。一世達は血のにじむような思いで一生懸命働きました。そして娘や息子たちには高等教育を受けさせました。高等教育を受けても、閉鎖的・排他的でなかなか思うような就職がなかったそうです。しかし、日本人独特の根張り強さと、コツコツと積み上げていく堅実さは、いつの間にか優秀な民族として認められ、日系二世達はシアトルの知識階級に属している人達が多いようです。

シアトルには明治会という一世達の集りがあります。明治生れの日本人達が思いっきり日本語を話し、花札等の日本独特のゲームを興じ、昔なつかしい歌謡曲を聞いて、日本食に舌つみをうって半日を過ごすのです。それは、個人の会費と州政府よりの援助を受け運営されています。彼等は日本を懐しんでも決して日本に帰りたいとは思っていません。もはや彼等にとって日本は外国。私がこの明治会で書道のデモンストレーションを行った時近々に開設される老人ホームの看板を書くことを頼まれ「シアトル敬老ホーム」と墨書きしました。アメリカは六五才以上の老人の八五%以上が息子や娘たちと一緒に生活せず、老人だけで暮らしています。アメリカ人の独立精神は日系一世達にも浸透していて、一世達はどんな高齢化し、連れあいに先だたれ、あるいは寝たきりになってしまおうと、老人ホームに入所するのです。「Good Morning」とはなく、「おはよう」と軽やかな日本語で日系一世達のお世話をしようとしてシアトル敬老ホームができました。しかし、なかなか日本語を話す職員がなく、大きな壁にぶつかっています（三世はほとんど日本語を話すことができません）。食事も一日三食の一回





シアトルの明治会で書道の実演

は必ず日本食です。州政府からの負担金と、入所者の保険によってまかなわれます。アメリカでは男性はもちろん女性も育児から手が離れるとほとんどの人達が働いています。か

なり高齢になるまで……。入所者の保険というのは、働いていた時に積み立てていたもの、日本の厚生年金にあたるのですが、保険のない人は、州政府より援助があります。また、七階建のシアトル市内を一望できる景観に恵まれた「かわい記念ハウス」という低所得層の老人アパートもあります。一世のかわいさんという方の遺産で創られ、これも州政府よりの援助を受けて運営されています。一人っきりの人もあれば、夫婦連れの人もおり、ここも三食に一回は日本食の料理。共同の大きな食堂と、ゆったりした応接間と洗濯場があり、裏庭には花畑、野菜畑があります。どんな高齢化してゆく一世達へのこれらの細やかなサービスはアメリカ二百年の開拓史の中で、日系人が果たした役割の承認ではなからうかと思いました。そしてこれが、アメリカ独特のヒューマニズムではないでしょうか。

日本では「一人暮らしの老人、死後三日間も発見されず」という新聞の見出しを、私達はよく見かけます。この記事が紹介された時、新聞社側は悲慘さを訴え、読者

は憐憫の情を持ちます。私はいつもこの種の記事を読んだ時、誰にもみとられず、世を去ったこの老人は本当に不幸だったのだろうかと思えます。人知れず、自分だけの世界で最後の息をひきとることができるのは、かえってしあわせではないだろうかと思えるのです。アメリカの老人は一人つきりになってもほとんどの人達が自分の子供達と生活を共にしません。私が滞在した橋口さんの主人のお父さんも晩年は一人で生活していました。そして、亡くなられた三日目にその事が発見されたそうです。しかし、そのような死を不幸な出来ごとだと思う人はありません。問題は、一人で死んでいったか、家族にみとられて死を迎えたかという形の問題ではないのです。経済的には保障がなく、精神的には不安を与えられる個々の必要に応じた施策がなされていない日本では、やはり一人暮らしの老人はしあわせの薄い人たちかもしれません。私はシアトルで、一人で暮らしている数人の老人に会いました。その内の何人かは活発にボランティア活動をしていました。例えば、日系一世の人は、敬老ホーム等へ行って恍惚寸前の人に優しく日本語で呼びかけ彼等の意識を呼び戻すのです。老人ホームも子供達の施設もボランティア活動は盛んです。「いずれ、自分達も老人になるから、何か手助けをしよう」また障害児を持った親は「同じ仲間同士だからボランティアになろう」また、非障害児を持った親は、「私達は幸福だから、何か手助けをしよう」とアメリカ人達はこういいながら、ボランティア活動に参加しています。ボランティア活動を受ける側の感謝と喜び、そしてボランティアの満足感、この相互の関係が大変にうまくいっています。私が出会った老人はみんな生き生きしていました。

アメリカ人は感謝の気持を現わすことがなんと上手なんでしょう。そして、アメリカ人はなんと上手に、自分達の生きがいを見つけるのでしょうか。

ママゴンにささげるバラード＜1＞  
かわいそうなアひ

岡田 淳





